原松洲家略系図（①生没 ②名 ③師弟）

仙台藩後、栃木藩・江戸住

大泉源蔵

直子

① 唐津藩士中島又佐衛門娘、一七四一～一八一三、七三歳柏崎で没、墓は西永寺・墓表分は松洲。

父死後母と共に姓を原と改む

原松洲

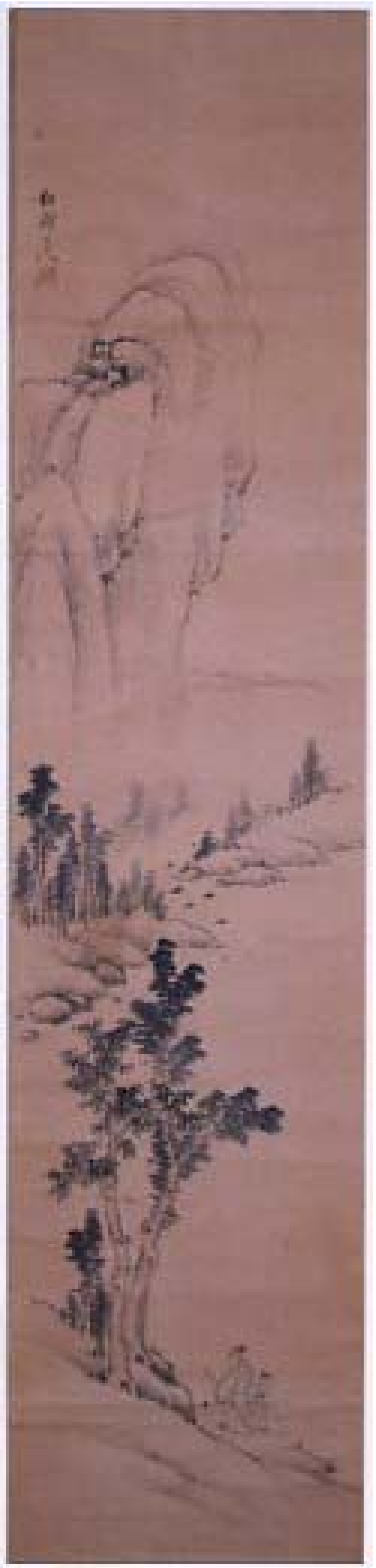
① 一七七六～一八二九、五四歳で没、墓は極楽寺。

② 名は簡、字は南史、通称清介、号松洲・優所、別所、愛称田圃の先生。

③・高崎で浪居中、師亀田鵬斎に柏崎の山田仲敬父子を紹介され来柏住、「翠光軒」開塾。

・巻菱湖と新友、朝川善庵を尊敬、松洲を訪ねて柏木如亭・大窪詩仏ら来柏遊。

・門人に植木仲寧・山田半仙・松村翠所・西巻子発等。



〔参考文献〕柏崎市史、北越詩話、柏崎人物誌、柏崎の先人たち、柏崎のいしぶみ

脩　斎

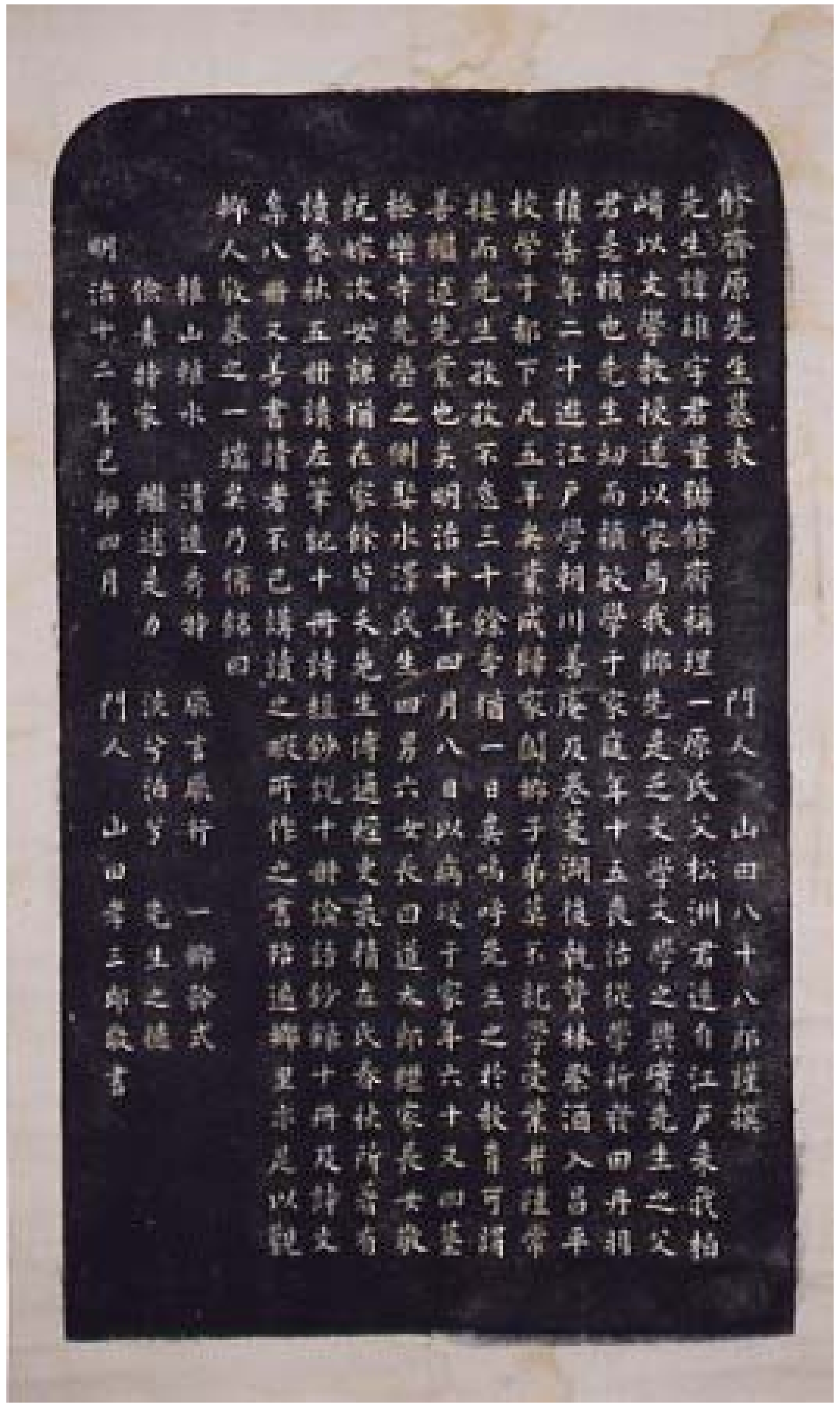
① 柏崎（田町住）一八一四～一八七七、六四歳で没、墓は極楽寺。

② 名は雄、字は君量・公飛・子傑、通称は理一・修蔵、号脩斎・淡圃、愛称は田圃の先生二代目。

③・父松洲の死後は、新発田の丹羽思亭に学び、後江戸の朝川善庵の門に入り、昌平黌（しょうへいこう）で学ぶ。
・帰柏して私塾を継ぎ、子弟では、西巻永一郎(遂処)、山田八十八郎（霜筠）、松村操（春風）等。

道太郎

① 一八八一、三六歳で没。

② 号大路。

③・幕末に江戸昌平黌で学び、柏崎県学校の教師。
・明治十四年、岐阜県師範学校に招かれたが、四ヵ月後に急死。